

## 受診を嫌がる…

⇒本人だけでなく夫婦と一緒に受診をしてみましょう

とよさと病院 認知症疾患医療センター

### 【 認知症の人の状態 】

認知症の人は、初期だけでなく進行してからも、正常な部分と認知症とみられる部分が混じり合っています。とくに、初期の場合は、意識がはっきりしているだけに、今後の生活への不安や恐怖も大きいことでしょう。また、病識の低下や、**自分にとって不利なことは認めない**という特徴があるため、否定したくなる気持ちになるのです。そして、「病院に行かなければダメですよ」などと強く言うと、強い拒否反応が返ってきて、“病院なんかに行くものか”という気持ちになってしまうのです。

### 【 対応方法 】

- ①ご本人の自尊心を傷つけずに、**病院へ連れ出すきっかけ**をつくりましょう。例えば、「市の健康診断のお知らせが来てるよ。65歳以上は、もの忘れ診断もするみたいね」と手作りのお知らせを見せてみましょう。
- ②**持病や他の不調をきっかけ**に病院を受診しましょう。その時に、医師に協力をいただけるなら、「念のため専門医に脳の検査もしてもらいましょう」と話してもらいましょう。
- ③**訪問診療**を行っている医療機関を探して利用しましょう。
- ④ご夫婦の場合は、配偶者に「私最近、もの忘れがひどいので受診してみようと思うのだけれど、一人では不安なので**一緒**に行ってくれませんか」と誘ってみましょう。
- ⑤家族が「私が心配でたまらないから、**私のために受診してください**」という泣き落とし作戦は、しばしば有効です。泣いている人には、親切にします。

参考文献：山口晴保, 紙とペンでできる認知症診療術, 協同医書出版社, 2016, P203, 252

杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P44-45

認知症の人と家族の会, 認知症になった家族との暮らしかた, ナツメ社, 2018, P54-57

趣味活動をやめたり、老人クラブの付き合いをやめたりと、社会参加や役割が失われやすいときです。本人を励ましたり、仲間に状況を伝えてサポートしてもらうなどの支援策を講じ、他者との交流を減らさないようにすることが、進行防止につながります。



2022.6作成

⑥身近な家族には、強い反応が出てしまいますが、**本人が信頼している人の**話は受け入れることが多いものです。別居している息子や娘、**本人が心を開く**親族の人に話をしてもらいましょう。

⑦本人の気持ちには、不安と恐怖、落胆、これからの生活の心配、「なぜ、私が認知症になるのか」といった怒りなど、**さまざまな思いが交錯**しています。その気持ちを**じっくりと聞いて**会話を重ねることで、気持ちが少しずつ整理させていきます。

⑧認知症という病気や治療、介護のこと、認知症になっても**その人らしく生きることが**できることを、本人の反応をみながら**伝えて**みましょう。

⑨“認知症の人と家族の会”などで、**同じような体験をした人たちの話**を聞く機会をつくってみましょう。不安や悩みなど、つらい気持ちが軽くなります。

参考文献：山口晴保, 紙とペンでできる認知症診療術, 協同医書出版社, 2016, P203, 252

杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P44-45

認知症の人と家族の会, 認知症になった家族との暮らしかた, 2018, P54-57

2022.6作成

## ケアのコツ…100の家族があれば、100通りの介護がある



認知症の介護において、何がいちばんよい方法かは、各家庭によって違います。本人の性格やこれまでの人生経験によって症状のあらわれかたもさまざまですし、介護する人と本人の関係、家族構成、住宅事情、経済状況などの環境によって、できること、できないことがあります。ですから、他の家と比較して、「うまくできない」と自分をせめることはありません。「わが家には、わが家の介護がある」と割り切って、自分たちなりの方法を考えていきましょう。

参考文献：認知症の人と家族の会, 認知症になった家族との暮らしかた, 2018, P29



認知症疾患医療センター

TEL 029-847-9581

(月)~(水)(金)(土)9:00~16:00